

京都大学経済学部同窓会会報

京都大学経済学部同窓会 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部内

ご挨拶



京都大学経済学部同窓会会長

協和発酵工業株式会社 相談役

中村寛之助

私は旧制大学最後の昭和二八年卒業です。

昨年十月、本部の経済学部同窓会で、宮崎前会長の後任に推されて同窓会会長に就任いたしました。

同窓会とは卒業以来、かわりなく過ごしてきましたが、平成元年、経済学部創立七十周年に再建された経済学部同窓会の東京支部の理事に推薦されました。ついで平成十年には、初代の東京支部長であったアサヒビールの樋口さんに推されて、東京支部長を引き継ぎました。

現在、社会は大きな変革期を迎えています。国立大学は来年四月には、独立行政法人に移行することになっています。このような時期に同窓会会長を引き

受けることになり、私にこの大任が果たせるかどうか不安ですが、皆様のご協力をいただいてその役割を果たしたいと思えます。

どうぞ、よろしく、ご支援のほどお願いいたします。

私は同窓会の役割について、同窓会は卒業生相互の懇親を深める場であり、又卒業生が相互に研鑽をつむ場でありたいと考えています。また、同窓会は卒業生と大学のコミュニケーションをつなぐ場であり、卒業生が母校の発展に協力していく場でもありたいと思います。

さて来年から国立大学は独立行政法人になります。移行後はどのような形になるのか、詳細なことはまだわかりませんが、

独立法人になると学長権限が強まり、学内に民間的経営手法の導入がすすむといわれています。

構想によると、まず国が示す中期目標をもとに大学は、中期計画を策定します。計画にもとづく実績は、第三者で構成する評価委員会によって評価され、評価の結果は予算の配分にまで及ぶといわれています。

従来は国立大学特別会計にかわって、国費の配分の仕組が変わるわけです。

この改革の建前は、従来の規制を緩和し大学運営を効率化すること、他大学との競争を勝ち込むこと、大学の質の向上をはかることを目指しているようです。

一方、私はこのような改革に

よって今後とも京大が伝統的に継承してきた自由と自立という学風がしっかり維持されていくのか、強い関心を持っています。私は近頃、社会が大学に期待していることは何かをよく考えます。

第一は、大学は学問・研究の場として新しい知の創出をすることでしょう。勿論、国際的なレベルに於いてです。まず何よりも学問において京大は優れたレベルを保ってほしいと思います。

現在、東京支部では、同窓会活動として経済懇話会という勉強会を年に、三回のペースで開いています。大学の先生をお招きして経済の動向や、大学の現状についてお話を伺っています。私達が現在の社会についてしっかりとした見識を持ち、自分の意見を発信できるように勉強することが目標です。

最近、経済学部では、学外でシンポジウムを度々行っており、一昨年は日経新聞社と共催で金融工学に関するシンポジウムが東京・大阪で開催されました。私は東京の会に参加いたしました。アメリカからノーベル経済学賞を受賞した、ロバート・マートン博士を講師にお招きして講演を聞きました。大変な盛会で、参加した同窓生は母校を誇りに思いました。次に大学に期待することは社会に役立つ大学であってほしい

ことです。

大学と卒業生が社会とのかかわりを持ち、社会への貢献を積極的に果たしていくことは大変意義のあることです。京大の場合、今迄この役割は十分果たしてきました。

昨年十月に経済学研究科は「上海センター」を設立しました。中国と東アジア地域は今や世界経済の中心の一つです。関西の産業や企業は中国と深い関係を持つところが多く、これらの地域の産業経済を多角的に解明することを求めています。更に企業は政策の提言をも期待しています。私は大学がこのような

地域社会の要望にこたえていくことを、強く支持します。

当初上海センターの設置には、予算の関係で国の許可が得られなかったようですが、学部長を始め関係の諸先生の努力と、何よりも長尾総長のご決断によって実現したと承っています。

昨年十二月、私は大学の上海センター、オープン式の式に参加しました。経済学部新棟の一室が用意され、総長自らが筆を執られた「上海センター」の看板が、総長の手によって掲げられました。集まった大学関係者とマスコミの拍手の中で上海センターがスタートした瞬間でした。

同窓会總會のご案内

平成15年度経済学部同窓会總會を下記の日時に開催いたしますので、何かとご多用のことと思いますが、会員諸氏お誘いあわせのうえご出席賜りますようご案内申し上げます。詳細につきましては、同封のご案内状を御参照下さい。

記

日時 平成15年10月25日(土) 15時~19時30分
場所 京大会館

京都大学経済学部同窓会事務局

会費納入のお願い

平成15年度(15年4月~16年3月)の同窓会会費5,000円を同封の振替用紙で、納入下さいますようお願い申し上げます。

京都大学経済学部同窓会事務局
住所: 〒606 8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075 753 3419 FAX 075 753 3490

なお、ご住所変更の折は、お知らせ下さいますようお願いいたします。

変貌の季節

「ご挨拶に代えて」



京都大学経済学部同窓会理事長

大学院経済学研究科長

経済学部長

下谷 政弘

同窓生の皆様、日々ご健にご活躍のことと拝察いたします。小生、研究科長・学部長として二年目を迎えました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

近年の日本の社会および意識の変化にはまことにすさまじいものがあるように思えます。変化のスピードがはるかに高まったばかりでなく、以前には予測もつかなかったような事態が矢継ぎ早に起きています。変化はまさしく急激ですが、改革はつるな空回りを続けているようにも思えます。

その中で、いよいよ国立大学もまた大きく変貌する季節を迎えました。ご承知のように、来年四月から全国の国立大学は一斉に独立法人へと衣替えすることとなりました。京都大学もまた「国立大学法人京都大学」となる予定です。この法人化の内容については先号においてもふれましたので繰り返しません。一口で申せば個々の大学への

「権限と責任」の大幅な委譲と

いうことでしょうか。もちろん、その通りであるならば、ずいぶん望ましいことに違いありません。しかしながら、「権限と責任」の委譲によって、一方で

大学の中へ競争原理が取り入れられる反面、文部科学省による各種の監視と統制も強化されることとなるため、国立大学法人法案をめぐって大学の内外で大きな議論を巻き起こしているわけ

です。いずれにせよ、今大学では膨大な労力と時間が法人化の準備のために費やされており、まさに大わらわの状態です。日本経済は「失われた十年」と呼ばれましたが、今度は大学がそれを経験することとなるのでしょうか。

さて、私も大学院経済学研究科・経済学部の教官は現在五四名、それぞれ研究教育活動に専念し、研究科・学部の一層の発展のために日夜腐心しています。昨年から今年にかけて学部

および大学院のカリキュラム内容の抜本的な改革にも取り組み、また、初めて外部識者による他者評価も行いました。国際的なシンポジウムやセミナーの開催もさかんです。事務局一同も、事務長をはじめとして研究科・学部の発展のために超多忙の日々を送っています。以下、この間のトピックスをいくつか取り上げてご紹介したいと存じます。

容の抜本的な改革にも取り組み、

まず、昨年十月には大和証券グループによる寄附講座を開設しました。同講座は、内外のフ

アイナンス工学関連の著名な研究者を招聘してセミナーやシンポジウムを開催するなど同研究の日本における拠点としての活動を本格化しました。また、十二月には中国の復旦大学と包括的に提携して、「上海センター」を設置し、現代中国経済についての研究教育の拠点としての活動をスタートしました。とくに、

本年一月には復旦大学のキャンパスにセンターの支所を設けて、双方の交流の便宜を図っています。

まず、昨年十月には大和証券グループによる寄附講座を開設しました。同講座は、内外のフアイナンス工学関連の著名な研究者を招聘してセミナーやシンポジウムを開催するなど同研究の日本における拠点としての活動を本格化しました。また、十二月には中国の復旦大学と包括的に提携して、「上海センター」を設置し、現代中国経済についての研究教育の拠点としての活動をスタートしました。とくに、本年一月には復旦大学のキャンパスにセンターの支所を設けて、双方の交流の便宜を図っています。

す。

時計台の改修工事は本年十一月末に完工予定で、京大百周年記念館として生まれ変わりますが、法経本館（東半分）についても耐震改修が七月からスタートし来年三月に終わることとなっています。エレベータが新設されるなど内装も一新され、経済学部新棟（八階建て）と二階部分で連結することとなっています。

いわゆる「トップ二十」の研究拠点を各研究分野ごとに選定する「二一世紀COEプログラム」については、本研究科は経済研究所とタイアップして応募

しました。経済学分野は激戦区であるため決して予断を許しません。その成否はこの挨拶文が掲載される頃には判明していることでしょうか。

また、懸案の京大ビジネススクール構想については、理工系のMOTなどと提携する必要など種々の難問が山積していたため、これまで一進一退を余儀なくされてきました。そこで、本年はまず研究科の中に新たに「ビジネス科学専攻」を立ち上げて、着実な一歩前進を果たしたいと考えています。同専攻には社会人向けのビジネス科学コースを設けて、高度専門職業人の養成を図りながら、時代の要請として社会からの負託に適切

に対応していく予定です。考えてみれば、おそらく大学

を取り巻く環境がこんなに激動するような時代はこれまで多くはなかったでしょう。私もは大学本来の使命について、社会における大学の位置付けについて、もう一度改めて考え直す必要があるかと考えています。京都大学経済学部、大学院研究科としての使命をもう一度考える必要があるように思います。法人化を経ることによって、その

後の五年、十年の間に大学の評価はガラリと変わることになるでしょう。今回の激動の時代とは、その意味においてタイムリ―なものだった、と言えるようにしなければならぬと思えます。そして、そのためにも同窓生の皆様との連携をこれまで以上に深め、ご支援とご指導をお願いしなければならぬと考えています。

経済学部同窓会

会長・副会長名簿

(卒業年次順敬称略)

平成十五年七月一日現在

名誉会長

宮崎 勇昭(昭和二十四年卒)
関西電力(株) 相談役

会長

中村寛之助(昭和二十八年卒)
協和発酵工業(株) 相談役

副会長

鈴木 慎朗(昭和十四年卒)
メルシヤン(株) 相談役

同

高山 栄一(昭和十六年卒)
(株)東京會館
取締役相談役

同(愛媛支部長)

榎田 三郎(昭和二十三年卒)
愛媛県文化振興財団 理事長

同

樋口廣太郎(昭和二十四年卒)
アサヒビール(株) 相談役

同(九州南部支部長)

菱山 泉昭(昭和二十四年卒)
鹿児島国際大学 学長

同(九州北部支部長)
鎌田 迪貞(昭和三十三年卒)
九州電力(株)
代表取締役会長

同(香川支部長)
岡野 一郎(昭和三十七年卒)
(株)幸耀 代表取締役社長

同(東京支部長)
安居 祥策(昭和三十一年卒)
帝人(株) 取締役会長

同(大阪支部長)
辻井 昭雄(昭和三十一年卒)
近畿日本鉄道(株)
代表取締役会長

同(名古屋支部長)
磯村 巖(昭和三十一年卒)
トヨタ自動車(株)
取締役副会長

同(神戸支部長)
門田 研造(昭和二十八年卒)

同
安福 昭嘉(昭和二十六年卒)
KPMGコンサルティング(株)
顧問

退官後のこと

京都大学名誉教授

野村秀和
(平八退官)



京都大学退官後、日本福祉大
学経済学部へ赴任、既に七年の
歳月が過ぎ去り、私も七十歳に
達した。福祉大赴任の翌年、大
学付属の福祉社会開発研究所の
所長に就任、四年間所長を勤め
ることで、学内事情や知多地域
の自治体からの介護保険計画な
どの委託研究を受け、短い期間
で馴染むことが出来たと思う。
京都時代から準備していた流
通研究の仕事『イトーヨーカ
堂・セブン イレブン』を一九
九七年六月に刊行、刊行後一カ
月で、一万部突破、このうち六、

六〇〇部は、トップ鈴木氏の推薦
によるIYグループの職員の購
入であり、私の期待した生協関
係は、三、〇〇〇部を超えた程
度であった。
翌一九九八年七月には、IY
のトップ鈴木敏文氏と対談『四
季報』六〇号「対談『共生』の
哲学が小売業の発展を支える」
学生運動や出版労連での活動を
楽しげに語った話は活字にはな
っていないが、私の脳裏に残っ
ている。

この時期に、現在も続けている
沖繩剛柔流の「空手」道場順
栄館(比叡平)に、六十五歳で
入門した。健康なのはこのこと
が役立つているのかも知れない。
福祉大では、社会福祉学部の
二木立教授と意気投合し、医
療・福祉複合体の実証研究に入
ることになる。ドクターである
臨床ケアの二木氏と会計学研究
の私をコアにした共同研究を福
祉社会開発研究所のプロジェクト
ト研究として開始した。二〇〇
〇年一月には、アメリカのカリ
フォルニアのサンディエゴとロ
スアンジェルスの病院グループ
を訪問し、医療・福祉複合体の

日米比較研究調査を、四名の福
祉大教員とスタンフォード大の
西村女史の現地参加で行った。
カソリックヘルスケアウエスト
(CHW)の訪問で、NPOに
よる草の根民主主義の息吹に触
れ、生き生きと仕事していた女
性たちの姿をみて、京都市発行
の生活情報誌『マイシティーラ
イフ』(二〇〇〇、三)に「ア
メリカの医療・福祉の現場に触
れて」を書いた。
国内での訪問調査は、現在も
継続中である。こうした調査か
ら、遅れている医療・福祉施設
の中にも、会計データを効果的
に活用している先駆的経験を知
ることになる。これについて、
「福祉時代における会計の役割」
という小文を『企業会計』(二
〇〇〇、八)に書いた。

一九九九年に、社会福祉研究
科について、大学院情報・経営
開発研究科が誕生した。私の担
当するリサーチ「医療・福祉・
非営利のマネジメント」に入院
した院生の中に、四〇代の生協
の中堅幹部の社会人が三名含ま
れていた。彼等は、一年終了で
修士号を獲得していったが、修
士論文を基礎に、その後一年の
研究を踏まえて、二〇〇一年二
月に「生協への提言」(桜井書
店)を刊行することが出来た。
二名の教員と三名の院生が執筆
者である。この書物は、日本生
協連合会の一部役員への批判を
含む、生協における経営者支配
について私が書いたこともあつ
て、日生協の推薦は得られなか
ったが、生協運動に一定の影響
を与えたと思っている。また、
二〇〇三年三月には、全国規模
の協同組合の福祉事業フォーラ
ムを、三〇〇人の参加で成功さ
せた。JAから購買、医療、ワ
ーカーズまでを含む研究会を、
厚生労働省からのスピーカーの

参加を含めて、名古屋で開催し
たのである。フォーラムの事務
局長は、私のリサーチ参加の社
会人院生であり、閉会の辞は私
が担当した。
二〇〇三年三月には、日本福
祉大の定年を迎える予定であつ
た。しかし、四名の博士後期課
程の院生が私のゼミに参加して
いるために、大学院における研
究指導の継続が要請され、私と
同じ事情にあるもう一人の教授
と共に、大学院招聘教授として、
任期が延長されることになった。
週に一回、一泊二日での知多半
島への出張は今年も続いており、
名古屋市鶴舞の大学院専用の校
舎もこの四月にオープンした。
医療・福祉施設のマネジメン
トを研究課題として、新幹線通勤
をここの分業しむことになると
いうのが、今の近況である。

いんな近況です

京都大学名誉教授

瀬地山 敏
(平十二退官)



平成十二年に京大を退き、関
西大学にお世話になっていま
す。所属は社会学部。関西学院社会
学部に移られ、マックスウエー
バーを論じられた青山秀夫先生
のばあいと違い、社会学部の産
業社会学専攻で産業経済論を担
当しています。この科目の担当
ははじめてなので、三年間よく
勉強をしました。(関大ではな
くにも委員をつとめることもなく、
研究の時間をじゅうぶん与えて
もらっています。伝統のある大

学ゆえ、委員としては役に立た
ないという配慮でしょう。感謝
しています。)類書を沢山読み
ましたが、ほとんど産業の実態
を伝えるという研究が多く、「リ
クツヤ」としてはものたりなく
思いました。もちろん実情を知
り、研究し、教育することもた
いせつですが、実情の背景にあ
るシステム(制度・慣習をふく
む)およびそれに体化化されてい
る知に焦点をあて、その生成・
持続・成熟するメカニズムを研

究することにしました。産
業の不思議、最適なものだけが
栄えるのではない、科学技
術と産業社会、イギリス産業革
命、システムの国際比較
トヨタ、GMを中心に、産
地と産業集積、地域として育つ
知の態様、産業社会の新しい
試み、公私・官民・生産者と
消費者・中央と地方の二分法を
こえて、など講義ノートはほぼ
完成しています。
関大に着任したとき専攻の名

称変更が将来の課題になってい
ました。産業社会学専攻といっ
ても、なにを研究・教育する専
攻か、具体的なイメージに欠け
る。先生たちと学生の意見です。
産業経済の研究を進めるかたわ
ら、専攻のスタツフの構成、学
生たちの講義にたいする反応に
関心を持ちました。その結果
「社会システムデザイン専攻」
という名称で、来年から改編す
ることになりました。システム
はどう設計されるかという視点
を明確にすることで、研究はよ
り洞察力を深め、学生たちは将
来のキャリアにおいて不可欠の
システム設計にかなする教養を
身につける。この改編にすくな
からずお役に立てたことをよろ
こんでいます。社会学部に属し
ていること、産業経済論の担当

で研究したことが、別の形で実
を結んだようです。
狭義の経済理論から現在のよ
うな研究にかわるきっかけは、
平成九年三月に創立された進化
経済学会にあります。方法的な
個人主義・原子論主義から自由
な、システムの動的的研究。い
くらかの前後はありますが、一
九八〇年代を境に、重要な要因
を与件として完結したシステム
を構想し、そのシステムのワー
キングを精査するというシステ
ム分析にたいする反省が起こり
どの分野でも新しいシステムを
模索し始めていました。人工知
能における創発性、社会学にお
ける自己組織化、生物学におけ
る集団思考(Quorum sensing)、
生命科学における遺伝子を媒介
に行われる伝達と変異の解明、

物理・工学・化学における複雑
性、新しいシステム観の台頭で
す。
進化経済学会を作ろう。さい
しよに相談したのは吉田和男教
授です。そのとき私は学生部長
をしていたので、任期が終わつ
てから本格的に準備にかかると
もりでしたが、そういうことは
忙しいときにするものですと吉
田教授に「叱られ」ました。八
木紀一郎教授が加わり、創立の
一年前から夜の準備会議が始ま
りました。その後両教授の研究
室は学会事務局としてこの春ま
で学会の基盤形成と発展に貢献
していただきました。この春に
会長を退きました。この春に
「ナルの発刊(来年予定)」を実
現したいと考えています。

私の研究

京都大学大学院経済学研究科教授

吉田 和男

昭和六二年以来、京都大学経済学部で数理経済学を担当して教えています。講義としてはこのほか、進化経済学、財政政策論、公共政策、制度論、非線形経済学などを教えています。数理経済学は経済分析の手法としてさまざまな数学を活用しようとするもので、経済学の伝統の中でクルーロー以来、大きな柱になっていきます。中心的な方法としては最適化理論や微分方程式を活用するものが最初でしたが、最近では複雑系数理を中心に研究しています。ニューラルネットワーク、イジングモデル、シ

これらは要素間関係により複雑系を形成しており、システム全体の性質は要素の性質よりも関係性によって支配されるという考えによつています。経済システムはその要素である生産者、消費者といった主体者の性質に大きく依存していることは間違いありませんが、消費者間、生産者間、消費者・生産者間の関係、それらの構成するネットワークの性質に強く依存していません。そこで、より関係を重視する複雑系の考えを経済システムの分析に活用しようとしています。さらに、現実の問題に関心があるので、このような数理的手法を日本型経営システム、IT、財政運営などを対象として研究を行っています。日本型経営システムはこれまで日本経済を発展させる原動力でした。終身雇用制度などの方法で企業への忠誠心が産業を発達させたこと

を考えてはならないということである。第二に、本質を具体的にとらえるためには、社会現象を発展的にとらえることが必要であり、そのための研究方法として歴史的方法アプローチには独自の意義があるということである。もちろん数理モデルや経験的調査も重要であるけれども、マーケティングとは何かという問題に迫るためには、どのようにマーケティングが論じられ実践されているのかという歴史的事実に着目したいと考えた。

第三に、マーケティングはやはり企業等の経営実践であり、それに対して何らかの実用的な

仕組みを持っています。制度論の議論にも関心を持って研究しています。大蔵省に長く勤務した関係もあって財政金融にはこれまで大きく関わってきました。財政学、租税論、地方財政論、公共選択論、金融論といった分野での研究もしています。中央政府や地方自治体で政策議論のお手伝いもしています。そういった現場と経済学の間をフリードバックすることが重要と考えています。さらに、現実の社会の中で、イノベーションを起こし、経済システムに「変異」を起こして経済を発展させて行く仕組みとして重要なIT、ベンチャービジネスに関しては実践を含めて幅広く挑戦してきます。さらに、国際政治にも関心があり、現在、「国際公共財」という切り口から、経済学と国際政治学の境界領域の研究を科研費の補助を受けて行っています。

出版案内 顧客志向のマス・マーケティング

京都大学大学院経済学研究科教授

若林 靖永

マーケティング研究をすすめる際に、まず、マーケティングとは何かという学問的課題を大事にしたいということを考えた。これは本学の名誉教授の橋本勲先生が『販売管理論』等の著書で論じられてきたことで

あり、そして近藤文男先生（本年四月から京都橘女子大学教授）から教えられてきたことでもある。学問は具体的な現実を分析することを通じてすすめるべきであるけれども、その際につねに本質はなにかという

ことを考えなくてはならないということである。第二に、本質を具体的にとらえるためには、社会現象を発展的にとらえることが必要であり、そのための研究方法として歴史的方法アプローチには独自の意義があるということである。もちろん数理モデルや経験的調査も重要であるけれども、マーケティングとは何かという問題に迫るためには、どのようにマーケティングが論じられ実践されているのかという歴史的事実に着目したいと考えた。

第三に、マーケティングはやはり企業等の経営実践であり、それに対して何らかの実用的な

分析の手法として先の複雑系の仕組みを軸にして、コンピュータシミュレーションの開発を経済学者・国際政治学者のグループで共同で研究しています。これ以外にも憲法論の議論にも参加しています。さらに、日本ではかつて主流の学問であった儒学が近年、廃れてしまつて、「心」の問題が議論されなくなつていきます。その「心」を正面から取り上げた儒学である陽明学を「桜下塾」という私的な集まりで研究しています。王陽明という明代の儒学者は「心即理」「知行合一」「万物一体の仁」といった言葉で示される「心」を軸にした真珠学を作りました。「心」を忘れた日本人は、経済を発展させる能力を失いつつあるように思えてなりません。日本人の心の原点の一つとなりうるコンセプトを陽明学を軸に求める研究をしています。

ことを考えなくてはならないということである。第二に、本質を具体的にとらえるためには、社会現象を発展的にとらえることが必要であり、そのための研究方法として歴史的方法アプローチには独自の意義があるということである。もちろん数理モデルや経験的調査も重要であるけれども、マーケティングとは何かという問題に迫るためには、どのようにマーケティングが論じられ実践されているのかという歴史的事実に着目したいと考えた。

以上のような三つの課題認識にたつて、これまですすめてきた研究成果をとりまとめたのが、『顧客志向のマス・マーケティング』（同文館出版、近刊）である。

本書は三つの構成部分に分かれており、第一部ではマーケティングとは何かという問題についての考察を加え、マーケティングはあくまでも販売であり、

第三部では、現代における顧客志向のマーケティングの四類型をあげて、その具体的な事例として、日本マクドナルド、セブン、イレブン、ジャパン、コピーみやぎ、ちばコピーの四つを挙げて、いま求められるマーケティングのあり方について問題提起している。この四類型の分析と検証はまだまだ初歩的なものであり、今後いつその研究をすすめたいと考えているし、さらにインターネット・マーケティング、リレーショナルマーケティング、マーケティングへと具体的な分析をすすめる予定である。

新任教官の紹介



教授

森 棟 公 夫

就任年月日

平成十三年十月一日

担当講義科目

学 部 / 計量経済学

大学院 / 計量経済学

出生地・生年月日

東京都

一九四六年六月三十日

感想・抱負等

二十六年間在職した経済研究所より異動してきました。

経済学研究所は会議が多くて研究時間がとれないという噂を異動前に聞いていましたが、異動してみるとそれほどではないと思っております。異動前から国際交流委員会の委員長をしていただくため勉強時間は制約されていましたが、静かで快適な研究室に籠もって勉強を始めればこちらの方が上です。(研究所は応援部と軽音楽部に近いため、毎日五時以後、週末は一日中うるさいのです。) 研究所は秘書が



教授

徳 賀 芳 弘

就任年月日

平成十四年十月一日

担当講義科目

学 部 / 会計学原理 A

大学院 / 事業創成会計論

出生地・生年月日

山口県

一九五五年十二月六日

感想・抱負等

京都の自然や町並みは魅力的で、インフラの意図的な不整備を差し引いてもすばらしさを実感しています。現在、上御霊神社の近くに住んでおりますので、大学までの道筋で賀茂川縁を通ります。今年は、ほぼ毎日、通勤・帰宅時にお花見を満喫できました。



助教授

梶 山 泰 生

就任年月日

平成十三年十月一日

担当講義科目

学 部 / 国際経営論 A・B、

経済英語

大学院 / グローバル・ビジネス

出生地・生年月日

愛知県

一九六七年六月十三日

感想・抱負等

着任してはや二年近くが過ぎ、京都での生活や仕事にも慣れてきました。多士済々の教官の方々と活力溢れる学生との交流から刺激を受け、教育・研究とも充実した毎日です。

私の主な研究対象は、企業の国際的な製品開発や技術のマネジメント、およびそこでの知識

事業創成会計論は、全国で初めて設置された科目ですので、

モデルとなる先例がありません。事業創成会計論の先例を作り上げていかなければならない訳です。大きな不安と同時に、新しい領域を開拓していく自由を感じています。

微力ではありますが、経済学研究科の新戦力となれますように努力していきたいと考えております。どうぞよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

の組織的な活用メカニズムなどで、経営戦略論、国際経営論、技術マネジメント論のいわば境界領域を専攻しています。イノベーションの担い手である企業の戦略や組織と、その企業にとって国や社会の制度や習慣、さらには国境が持つ意味について研究しています。



助教授

若 林 直 樹

就任年月日

平成十三年十月一日

担当講義科目

学 部 / 経営組織

大学院 / 組織分析

出生地・生年月日

東京都

一九六三年七月三十日

感想・抱負等

組織経営分析専攻にて、経営組織論を担当するために異動しました。専門は組織社会学で主に人的組織の面からの考察を行っており、ここでの領域として経営学分野において、組織理論や組織行動論の分野にあたります。この「失われた十年」の間には日本の経営も「成功の罫」に



助教授

諸 富 徹

就任年月日

平成十四年四月一日

担当講義科目

学 部 / 財政政策論、環境経済論、現代経済事情

大学院 / 財政政策論

出生地・生年月日

大阪府

一九六八年十一月二十六日

感想・抱負等

私は一九九三年に京都大学大学院経済学研究所に入り、一九

競争において劣位に立つ面も見かけられます。専門的には、戦略的提携などに見られる、アジアや欧米で顕著になってきたネットワーク組織の構造と過程の実証的研究を行っています。積極的に内部と外部の経営資源を結合している組織戦略について明らかにして、大学院や学部教育においてその成果を理解頂ければと思っております。京都大学経済学部も伝統ある学部であり、これまでの伝統を客観的に反省し、「成功の罫」にはまることなく、二一世紀にふさわしい高等教育を展開できる場になるべきと思ひ、そのために微力でも尽くしていきたいと思ひます。

九八年に横浜国立大学へ赴任しましたので、ちょうど四年ぶりに京都に戻ってきました。このわずかな期間にも京大キャンパスでは建物の改修や新規建築が進み、以前よりもキャンパスが小奇麗になってきたという印象を持ちます。さて、私自身は「環境税」の研究を専門としております。理論的には、先行していた欧州に学ぶところが多かったですが、日本でもここ数年環

境税をめぐる状況は大きく変わり、自治体レベルでは既に産業廃棄物税や森林環境税が導入されました。私自身も三重県や神奈川県における地方環境税導入の議論や、環境省の温暖化対策税に関する議論に加わる中で、現実の制度や現場の問題意識が



助教授
乾 孝治

ら学ばされることが多々ありました。理論を現実に応用するだけでなく、現実から理論化を図るといふように、「理論と実際の相互作用」を意識しながら研究を進めることの重要性を改めて感じている次第です。

就任年月日

平成十四年十月一日

担当講義科目

学部/証券システム論、証券投資の手法と理論
大学院/証券システム論、証券投資の手法と理論、資本市場論、投資パフォーマンス評価論

出生地・生年月日

埼玉県

一九六二年四月二十四日

感想・抱負等

昨年十月にここ京大に職を得るまでの約十五年間、民間企業に身をおきながら、主に金融工学の応用に関する研究・開発の仕事を担当してきました。こうした経験を活かし、理論と実務の関わり合いを理解させると同時に、理論を学ぶことの

重要性を感じ取ってもらえる講義ができればと考えています。しかし、教壇に立つて話している時、時折恐ろしくいらぬに学生の反応が無いことがあります。学生は講義を聴くものですが、よく考えてみれば彼ら一人一人が何を欲してここに居るのか、実は何も知らないで講義をして

いる訳です。その後、数名の学生と酒を飲む機会がありました。また、アンケート調査を行うことで、やっと彼・彼女らの平均的な後ろ姿が見えてきたという心境です。まだ道半ばですが、教育もサービスマンであるという

ことを踏まえて、しかし迎合することなく、気がついたら勉強していたという究極の講義を目指していきたいと思えます。



助教授
遊喜 一洋

担当講義科目

学部/国民所得論

就任年月日

平成十四年十月一日

大学院/労働市場とマクロ経済学
出生地・生年月日
鹿児島県
一九七二年三月十四日

感想・抱負等

昨年アメリカ合衆国ロチェスター大学大学院の博士課程を修了し、十月に経済学部に着任しました。専門はマクロ経済学、特にその中でも経済発展のメカニズム、所得分配の決定要因、消費・貯蓄行動などが関心領域です。学部の国民所得論では日本経済についてのデータを参照し現実経済への関心を喚起しながら、学生自らが簡単な理論モデル



助教授
竹澤 祐丈

ルを用いて現実経済の分析を行う能力を養成することを目標として講義を行っています。大学院の講義では国際水準の論文を執筆するために必要な知識を効率よく提供することを心がけています。京大の経済学部では従来自学自習が勉学の基本となってきたように思いますが、留学生活の経験から講義による教育の重要性を痛感しています。経験の浅い私ですが、アメリカの大学教育の長所を取り入れながら、多様な学生のニーズに応じた教育を提供できるよう努力する所存です。

就任年月日

平成十四年十二月一日

担当講義科目

学部/経済英語A(全学共通科目)、社会思想史各論A、外国経済書購読A・B

大学院/比較社会思想史

出生地・生年月日

東京都

一九六八年四月二十七日

感想・抱負等

経済学やその関連思想を歴史的に分析するスタンプを多く擁することは、本学部の特徴のひとつですが、その一翼を担う者に浴し、身の引き締まる思いです。これまでわたしは、学生や学振研究員として、この豊かな伝統の中で育まれ、また海外留

学によって、異なる伝統にも接してきました。これからは教員として、これらの経験を活かし、伝統の墨守ではなく、その更なる展開に寄与すべく努力したいと考えています。わたしの専門である社会思想史の課題のひとつは、学生自身が、経済や社会の問題を歴史的に把握し、併せてその克服のための療法を処方・実践する能力を養成する手助けだと思えますが、この課題の遂行には、もうひとつの要素が不可欠だと思われまます。それは、社会問題に対する教員とは異なる視点の存在だと思えます。この点で、卒業生の皆様からは、ご自身の多様なご経験に基づいた忌憚のないご助言とご批判とを頂けますことを心より願っております。

各支部からの便り

東京支部

一、第十三回東京支部総会
平成十五年三月四日(火)、早春の穏やかな夕べに第十三回支部総会が開催された。

外ではイラクや北朝鮮の問題内には出口の見えない経済情勢等々、気分的には重苦しい時節ではあったが、会場の東京會館ロイヤルルームにひと足踏み入ると、そこは同窓会特有の和やかでほっとする空気であつた。

午後六時に開会となる。最初は講演会。
講師
ハーバード大学教授(ライシャワー日本研究所所長) アンドルー・ゴードン博士
テーマ

「日本経済システムの功罪について 歴史的・グローバルな視点からの再評価」
流暢な日本語で専門の戦後の労働運動史の研究成果を交えながら、丁寧な話が聞いた。質疑応答の中では、「日本はもっと自信を持つていいのでは」という誠実な人柄がにじむコメントがあつた。

午後七時から総会に移る。はじめに、中村寛之助支部長

から、平成十四年十月二十六日の本部の理事会・総会で、東京支部長兼任のまま第五代同窓会長に就任したこと。後任の東京支部長に帝人会長の安居祥策氏(昭三二年卒)、今回新たに設けられた副支部長に富士写真フイルム副会長の宗雪雅幸氏(昭三四年卒)を推薦し、本年一月の支部理事会で承認されたことを報告され、三人の方々への激励の気持ちを含めた盛大な拍手で総会承認の運びとなつた。

中村前支部長は、ご挨拶の中で「国立大学の独立法人化にあたり、同窓会としても出来る限り協力をしたい」と、「同窓会を単なる懇親の場ではなく、会員相互の研鑽の場にすると共に大

学と支部の絆を強めてゆくために、東京支部に経済懇話会をスタートさせ、既に六回開催し、毎回一〇〇名程度出席されている」ことにもふれられた。
引き続き、夫々の国内・海外出張のため当日空港から会場に直行された安居新支部長、宗雪新副支部長から新任のご挨拶があり、次に急用のため欠席された下谷弘理事長(学部長)に代わって、吉田和男教授から

「独立法人化への取り組み状況
時計台修復の件ほか」の本部報
告と、京都から出席いただいた
八木教授以下八名の先生方のご
紹介があった。最後に和田常務
理事から総務報告があり、これ
で総会は終了した。

いよいよ懇親会に移る。先
輩・後輩の楽しい交流が続いた
後、最後に恒例の「学歌」と
「琵琶湖周航歌」を全員で合唱、
次に万歳三唱で午後九時に終了
し、宗雪副支部長が万歳のご挨拶
の中でご紹介された「同窓会
は英語で“re-union”という言
葉をかみしめながら、約二〇〇
名の出席者は家路に着いた。

二、事務局の異動

平成十四年十月十六日に、毎
年恒例の理事・幹事会が、大阪
市内の関電会館において開催さ
れた。同窓会の活動状況、収支
予算等の議案の審議の後、浦上
支部長より今まで支部長を努め
させて頂いたが、諸般の事情も
あり、心機一転新しい方に支部長
をお譲りしたいとの発言があ
った。その場において、浦上支
部長が辻井昭雄理事（昭和三十
一年卒、近畿日本鉄道社長）を推
薦され、出席理事の満場一致で、
辻井支部長が誕生した。

また、平成十五年一月二十四
日に第十二回大阪支部の総会お
よび懇親会が大阪市内のガスビ
ル食堂にて開催された。第一部
の支部総会では、吉川勝久幹事
（昭和四三年卒、近畿日本鉄道）
の司会で始まり、冒頭辻井支部長
から以下の挨拶があった。

「このたび、浦上前支部長の
後を引き継ぎ、新しく大阪支部
長を拝命した辻井です。前任の
浦上様は、鳥井前々支部長が、
本部会長に就任されるのに伴い、
平成十年に支部長をしていただ
き、四年の長きに亘って、大阪
支部の各種行事の実行、活性化
にご尽力いただきました。今後は、
経済状況をはじめ客観情勢

の厳しい中ではありますが、皆
さんのご助力を得て、同窓会活
動の活性化、親睦に努力してま
いりたいと存じます。皆様方よ
ろしくお願い申し上げます。こ
こでひとつ皆さんに提案がござ
います。なかなか私一人では行
き届かぬ点もあるかと思いますが、
皆さん方の賛同を得られれば、
私の補佐をしていただく副支部長
を複数指名しようと考えて
おります。昭和三十三年卒の大
森経徳理事および昭和三十九年
卒の河合同二理事にお願いした
い。陣容を強化して、同窓会の
活性化に尽力してまいりたいと
存じます。」

その後、来賓の京大経済学部
京都大学経済学部同窓会神戸
支部は、経済学部同窓会が昭和
三五年「同好クラブ」として発
足したのを受け、昭和三六年三
月、同好クラブ神戸支部として
発足しました。その後、大学紛
争等で経済学部同窓会が中断中
も、「神戸同好クラブ」として、
活動を続けて参りました。開催
の記録を先日まとめ、ホームペ
ージに記載しました。

京都大学経済学部のホームペ
ージ 同窓会の広場 神戸同好
クラブとリンクしていただくご
覧になれば幸いです。開催記録に入
場するには「kobe1995」と入力してください。

大阪支部

神戸支部（神戸同好クラブ）

香川支部

- 場 所
 帝人（株）秘書室気付
- 住 所
 〒一〇〇 八五八五
 東京都千代田区内幸町二
 一 一飯野ビル
- 電話番号
 〇三三三五〇六 四〇四三三
- F A X
 〇三三三五〇六 四〇四六六

（一）東京支部の事務局長が、
常務理事の和田宏氏（昭
和二十九年卒）から理事の
合田隆年氏（昭和三五年
卒）に交替した。

（二）支部長交替に伴い、東京
支部の事務局は、次のと
ころに置かれることとな
った。

各教授を代表して、記念講演と
して、経済学部長の下谷政弘教
授から「持株会社と日本経済」
という題で講演をしていただい
た。企業のコーポレート・ガ
バナンスが問われる中、参加者
の大多数を占めるビジネスマン
にとっても非常に興味深いテー
マであり、出席者全員が熱心に
聴講頂き、質疑も活発であった。

第二部の支部懇親会では、浦
上前支部長の冒頭挨拶および乾
杯で幕開けを行い、以下来賓を
代表して京大経済学部の赤岡教
授からご挨拶いただくなど、活
発に懇親を深め、名残を惜しみ
つつ、お互いに再会を約して散
会した。

平成十五年二月十四日（金）、
同窓会香川支部総会の第七回総
会が、三十名の同窓会員を集め
て高松市内のホテル（リーガゼ
スト高松）において開催された。
当香川支部は、四国内を統括し
ていた愛媛支部から独立する形
で平成二年に発足したものであ
り、香川県内居住者や香川県内
の企業・団体の勤務者等で構成
し、現在の会員数は五十一名で
ある。

今回の総会は、前回の第六回
総会が平成八年十二月に開催さ
れて以来、約六年ぶりの開催と
なるもので、支部役員交代の決
議のほか、会計報告や支部運営
に関する確認を行った後、懇親
会を実施し久方ぶりに会員間の
親睦を深めた。

午後六時三十分からスタート
した総会では、欠席された香川
支部長の高橋國夫氏（昭和三十
二年卒）に代わって副支部長の
岡野一郎氏（昭和三十七年卒、株
式会社幸耀社長）から挨拶が行
われた後、支部役員の選出が行
われた。副支部長の岡野一郎氏
を新支部長に、また、谷口壽人
氏（昭和四二年卒、四国経済連
合会専務理事）を新副支部長に
選出するとともに、兩名が本部
理事に就任することを決議した。
お二人からは、支部役員として
今後益々活動を盛り上げてい
きたい旨の挨拶があり、新体制
のもとで活動を活性化させてい
くことを全員一致で確認した。

また、総会議事に引き続き開
催された懇親会は、昭和二十一
年卒の大先輩から平成十年卒の
若手までの幅広い年齢層にまた
がる世代を超えた交流となつた。
最年長の横関正氏（昭和二十一
年卒）の乾杯の音頭のもとスタ
ートし、参加者全員がそれぞれ
の自己紹介や近況報告を行った。
数少ない女性会員の枝園由美子
氏（平成八年卒）も紅一点で参
加するなど和やかな雰囲気で行
った。

久方ぶりの開催となるという
こともあって、中には初対面の
者もあつたのではないかと思つ
が、自身の学生時代の懐かしい
出来事や共通の恩師の思い出に
ついて語り合う中で、多に懇
親を深めることが出来た。

懇親会の最後には記念撮影を
行い、次回の再会を誓い合うな
ど盛況のもと支部総会を終えた。
が、当日は週末。別れを惜しん
で二次会、三次会が深夜まで続
いたのでは……。

今回は、永らく休眠状態に近
かつた同窓会の支部活動を改め
て再開する契機になつたという
点で非常に意義深いものであつ
た。次回以降は、大学から先生
をお迎えしご講演いただくなど

さらに活動を深めていきたいと考えており、転勤等で香川支部会員になられる方におかれまし

ては、是非、事務局(四国電力、経営企画部気付)までご連絡いただきたい。

愛媛支部

愛媛支部は、一九六五年発足以来、毎年一回欠かさず、総会・懇親会を開催している。現在会員数は、約五〇名で、

二、下期総会

年会費は三千元、総会(懇親会)出席者の実費(五千元程度)負担により運営している。

例年は、十一月、十二月の開催であるが、今回は一月二五日(土)午後五時より、伊予銀行

以下、昨年度の活動を報告する。

先頃、会員の伊達功松山大学名誉教授が、長年のユートピア思想研究の成果を、フイクションの形で「南海のユウトピア」(私家版)と題する大著に纏められたので、その主題についてお話をいただいた。続いて本部から出席の小島専孝教授に、大学・同窓会の現況など報告を願った後、豪華なフルコースの河豚料理で、懇親会は大いに盛り上がった。そして次回は、会員の榎田与一大州市長に肝いりを願ひ、古川顯教授から、最近の大学をめぐる動向などお話を伺い、ひき続き八時すぎまで、懇親会が持たれた。

一、上期総会

七月一三日(土)午後五時より、恒例により、伊予銀行松山保養所で開催。はじめに、松山大学鈴木茂教授に「愛媛における、産学協同の現状」のテーマで、三〇分レクチャーをお願いし、京大本部から出席いただいた、古川顯教授から、最近の大学をめぐる動向などお話を伺い、ひき続き八時すぎまで、懇親会が持たれた。

当日の出席は一五名であった。

当日の出席は二〇名であった。

九州北部支部

一、会員数

一一〇名程度

に本社を置く企業の九州北部地区勤務者等により構成。

(地元企業・地方自治体等への就職者を中心に、東京・大阪

二、役員氏名

支部長

鎌田 迪貞(昭和三十三年卒九州電力(株)代表取締役会長)

理事

山田 松華(昭和十九年卒日本通運(株)参与)

理事

妹尾隆一郎(昭和二十三年卒高光産業(株)代表取締役会長)

理事

黒瀬 和男(昭和三〇年卒西日本総合ドリンク(株)取締役社長)

理事

藤永 憲一(昭和四八年卒九州電力(株)人事労務部次長)

三、総会

一年一回、原則として五月の第三水曜日に開催。

場所は、会員各位の集まり易

さを考慮し、JR博多駅前の「ホテルステーションプラザ」にて開催。

経済学部長や同窓会長、九州ご出身の先生方をお招きし、例年二五名程度の参加を得て懇親会を深めている。

四、役員会

総会のほか、春・秋・年末年始などの年二、三回役員会・懇親会を開催し、大学や同窓会本部の状況などについての情報交換。

五、その他

近年は、九州北部地区に転入して来られる方(主に東京、大阪に本社を置く企業在籍者)の情報収集が十分にできず、事務局が把握している会員数が年々減少しており、会員の転勤情報の同窓会事務局からの情報提供をお願いしたい。

九州南部支部(熊本・宮崎・鹿児島)の三県から構成)は、京都大学名誉教授で鹿児島国際大学学長の菱山泉氏(昭和二十四卒)が支部長となり、平成九年に発足した。第一回の設立総会は、同窓会長の鳥井道夫氏(当時)をお迎えして、同年七月十二日に鹿児島市で開催。それ以降、毎年、支部総会・懇親会を開催している。

支部設立以来七年目となる平成十五年度の総会は、六月二十一日(土)、宮崎市のホテルメリージュで開催され、卒業生など十三名が出席した。

総会では、菱山支部長による挨拶の後、京都大学大学院経済学研究所の根井雅弘教授が、上海センターの開設について、二十一世紀COEプログラム

の申請状況について、独立行政法人化問題について、時計台周辺の整備について、工学部のキャンパス移転に伴う跡地利用等について、学部および大学の現況報告をした。

ところで、今年度の支部総会では、これまでの支部運営の実績と支部会員からの要望等を踏まえ、支部設立以来はじめての試みとして講演会を開催。総会に引き続き、京都大学の根井教授が「二十世紀経済学の遺産 ケインズとシュンペーター」と題して、約一時間講演した。

講演会終了後、懇親会を開催。開催県(宮崎県)理事の宮里泰夫氏(昭和十七年卒)による乾杯のあと懇談にはいり、根井教授や昭和十六年から平成六年卒業の出席者全員が懇親を深めた。平成十五年六月二十一日現在の支部会員は七十六名(熊本三十三名、宮崎十四名、鹿児島二十九名)。会員の高齢化や南九州という立地的な問題、また勤務先の異動等により、毎年の総会参加者は十数名に留まっているが、出席者は、来年度支部総会(鹿児島市を予定)での再開と九州南部支部の更なる充実発展を誓い合って散会した。

九州南部支部

各年次別同期会

活動報告

昭和三十年卒業「五五会」

会員は百五十名余で各種懇親会、イベントを定期的に開催。

五五会全国総会

次回は平成十六年秋を予定し、目下、具体案を検討中。

関西五五会

平成十五年は六月六日心斎橋のニッセイ倶楽部で昼食会。その前に四日囲碁会、五日ゴルフ会を開催。囲碁は年四回、ゴルフは年二、三回を予定。東京や海外からも参加がある。

昭和三十一年卒業「丙紳会」

一、東京丙紳会

平成十四年十二月十六日恒例の忘年会が日比谷の松本樓において開催され、大阪から児玉光明氏、上野晴夫氏、安田禎男氏

の三名、名古屋から磯村巖氏の参加もあり総勢四十名の盛会となった。

ゴルフ会は春秋年二回名門小山ゴルフクラブで行われ、いずれも五組の参加があった。十五年春はあいにく雨となり(五月十五日)、秋迄順延となった。

二、クラス別同窓会
(一)一組の「六・六会」
平成十四年六月六日六時、学生会館において開催され、二十名が参加した。(幹事宗像昭雄)

(二)二組の「重陽会」
従来の「九・九会」を改め、中国の古事に習い「重陽会」と改名し、平成十四年九月九日に松本樓で開催された。大阪から沖野貞雄氏、児玉光明氏、鈴木重夫氏の参加もあり合計二十名の出席となった。

(三)三組の「友好会」
平成十四年十一月二十日恒例の京都祇園「白梅亭」で行われ二十四名の出席者があった。

(四)四組
平成十四年十月七日学生会館において昼食会が行われ八名の参加があった。

(幹事 小林捷剛)

三、大阪内紳会

(一)夏季懇親会および忘年会
常任幹事 竹村青山

(戸籍名 秀一)
会場：大阪市西心齋橋一丁目 料亭「よし井」

平成十四年六月七日(土)
夏季懇親会 参加約八名
平成十四年十二月七日(土)
忘年会 参加約十二名

昼前から雀卓を囲みます。
竹村氏は、奈良から近畿一円の「古寺・自然ガイド」として皆様をご案内しています。

(二)内紳ゴルフ会
平成十四年は、年四回開催
場所：スポーツニッポンカン トリー倶楽部

●第七十二回
平成十四年三月二十二日(金)
参加十二名
優勝者 高木晃治

●第七十三回
平成十四年六月十二日(水)
参加十二名
優勝者 森口親司

●第七十四回
平成十四年九月十日(火)
参加十二名
優勝者 森口親司

●第七十五回
平成十四年十二月十一日(水)
参加十一名
優勝者 上野晴夫

●第七十六回
平成十五年三月十一日(火)
参加十二名
優勝者 高木晃治

因みに、上野、高木両氏は、当クラブの地主さんで、森口氏

は帝塚山大学へ転じてから専ら学内練習場に詰め、スコア八〇代は当たり前で、七〇代を出さなかなの気配です。

(三)三組クラス会「ゆうこう会」
教養課程の受持ちが故 谷友幸(ゆうこう)先生で、現在六代目の会長が泉谷湧一(湧公ゆうこう)氏で、「ゆうこう」活動を続けています。

●第二十八回
平成十四年十一月二十二日(金)開催……(毎年十一月第三or四金曜日に開催)
ゴルフ会
場所：京都ゴルフクラブ上賀茂コース 参加九名
優勝者 松家克磨

例 会
場所：祇園新橋白川畔 料亭「白梅」参加二十五名
(うち女性三名)

(四)反田正司、松岡清忠 記
昭和三十三年卒業「三三年会」
年令も古希に近づき大学時代の旧友は気心の通じる貴重な存在になり、暮やゴルフにも、熱が入っている此の頃です。しかし長年のご苦労が故障や病気になるて出てくる人がふえて来ましたが、まだまだへこたれる年ではないので、お互いに頑張っ

て行きたいものです。
一、先ず本年も恒例の大阪支部総会が一月二十四日に大阪ガスビルで開催され、下谷学部長から銀行の持株会社ラッシュに

看られる日本経済の悪さの指摘、京大正門が美しくなつた事、法経第一教室が五百人の大会議室に十一月に生まれ変わるとの話に、時代の変遷を感じ、懐旧しきりでした。総出席者数百六十

三名中、三十二年卒が二十三名、十四%、パーティでは二テップを貰い、年次別では、トップの参加振りでした。二次会は近所のレストランで、笑顔の奥さんに毎年迎えられ、学生時代にか

えり酔払って盛り上がりました。
二、昼食会
二カ月に一回、偶数月第一金曜日、食事だけでよい自由参加の会を日本綿業会館で行いま

す。話題は時事問題から日本経済まで広範ですが、ここでも一番関心があるのが病気関連です。持病持ちばかりなので、自分の病気に詳しく、どう発見し、ど

んな治療や手術をしたかなど説明を聞き、明日は我が身の参考にしていきます。毎回十名前後で、食後に暮会を開くため暮会メンバーが中心となっています。

三、暮会
毎月第一金曜日、メンバーは二十一名ですが、常連は十名くらい。一時から五時頃で三局を打ちます。勝ち負けでスライドする点数制なので、いつも好勝負です。東西囲碁交流会を行うこととなり、昨年は京都、本年は湯河原にて二月に一泊二日で開催しました。関西からは六名、関東が十二名、計十八名が参加

し、最多局数の人は十二局を囲碁漬けでした。関西二十五勝、関東三十六勝と、関西の敗北でした。

四、ゴルフ会
年二回春と秋に開催。昨年は五月に旭国際CC(宝塚)で参加者十二名、十月にスポーツニッポンCC(宝塚)で参加者は十五名でした。シニアデイにプレーをしながら、寄る年波に勝

てず、ベスグロは九十前後、ドライバー飛距離も、チャタンなどの新兵器を使っても二百ヤードがやつとという人が大多数になりました。しかしゴルフができるという健康に感謝しながら楽しんでいきます。

さて、一方、伝統ある大学を卒業してきた者として、今、社会が急速に気骨や歴史を失いつつある時、次世代へ一つでも二つでも、伝えておかなければならない使命が残っているような気がしてならないのですが。

(片岡正彦、徳田重信 記)
昭和三十三年卒業「燦燦会」

一、東京燦燦会
東京燦燦会は、大阪燦燦会と同様、引き続き活発な活動を展開しております。
月例昼食会は、去る四月の例会をもつて二百回の開催を重ね、記念誌(名簿)の刊行を計画すると共に、三百回開催を目指して努力することを確認しました。また、登山同好会は、五〇回

登山を記念し四月上旬、京都で二泊三日の東西合同登山を盛大に挙行しました。

その他、ゴルフコンペ(年二回)、現代懇話会問題提起と討論、懇親、年三回程程度、囲碁同好会なども継続しております。今後共、東西相携えて、京大経済学部同窓会の活性化に貢献したいと願っておりますので、皆さま方のご指導ご支援をお願い申し上げます。

二、大阪燦燦会
(一)昼食会
三、五、七、九月の年四回大阪俱樂部にて開催。一回二・五時間。二十五、三十名。
三月 大森経徳氏が一年間の西安交通大学語学留学を終え二月に帰国。

「中国語学留学を終えて」と題しスピーチ。
五月 竹内建氏の「大正琴」演奏。

(二)ハイキング
年二回開催。夫婦同伴可。
四月 太閤道とサントロリー山 崎ディステイラリー
十一月 六甲山・再度公園 何れも十、十五名参加

(三)ゴルフ会
定例会(四月、十月)、同好会(三、五、九、十一月)計六回開催。
何れも三、五組の参加。

(四)囲碁会
毎月第三土曜日(原則)年十回大阪俱樂部にて開催。
会員以外でも京大卒であれば

参加可。毎回十〜十五名参加。

(五) 忘年会

十一月二十二日、KKRホテルオーサカにて開催。四十名参加。

(山本喜朗、小山禎三 記)

昭和三十四年卒業「山紫会」

山紫水明の山紫と三四とをかけた「山紫会」は東京・名古屋・大阪にそれぞれ支部があり、各支部ごとに活発な活動がおこなわれていきます。

一 定例昼食会

東京では毎偶数月の昼食会が開かれていますが、これに対応して大阪では毎奇数月の第二水曜日に定例の昼食会を開きます。場所は大阪梅田のOSビル最上階。四方のビルや生駒山脈を一望できる晴れ晴れとした気分の良い会場で昼食をとったあと、会員交代の卓話を聞きます。話題は講師それぞれの専門分野の話から趣味の話まで、パソコンの話からパチンコの話までバラエティに富んでいて楽しみです。

この昼食会は昭和六十一年から途切れることなく続いており、対象人員七十名のうち常時三十名くらいが出席しますが、会社をリタイアして時間的余裕ができた人が増えてますます盛況になってきています。連絡方法も最近では往復葉書からパソコンでのメール連絡が増えてきて、短時間に、安い費用で、密度の高い連絡ができるようになって

きました。

二 ゴルフ会

他年度の諸兄と同様、ゴルフも盛んで春夏秋冬年約四回のゴルフ会を開きます。

出席は常時二十名前後。一昔前までは勤務の都合で大半の会員が土曜日でない無理でしたが、近頃ではウィークデイの希望が多くなり経営は随分楽になりました。

何年かに一度海外(グアム島)を含めて遠方へのゴルフ旅行を実施していましたが、今年からは毎年、東京・名古屋・大阪山紫会合同で、秋に北海道遠征ゴルフ会が開かれる予定です。

三 囲碁の会

二木会の名称で毎週第二木曜日囲碁の会を開きます。

会員もいまや古希に向かっていますが、いつまでも元気で楽しい第二、第三の人生を送る一環として、この山紫会が役にたっていることと思います。

(池田啓一郎 記)

昭和四十六年卒業同期会

昭和四十六年卒業の武田です。

過去二年間の昭和四十六年同期会の活動状況をお知らせします。私は平成十二年十月に同窓会東京支部の幹事になりましたが、卒業後三十年経って声を掛けて果たしてどうという反応があるのか不安でした。十三年二月に名古屋出張があったので、同窓会

本部から同期名簿をもらい昭和四十六年で同クラスだった松本さん

に会いませんかと電話すると、「いいよ」という返事。待ち合わせ場所に行っても果たしてお互い分るのかと思いましたが、心配無用一目でそれと分かり、三十年の歳月を埋める事が出来ました。同年三月に東京支部総会が予定されていましたので、名簿を基に手当たり次第に電話しました。我々昭和四十六年卒業生は、在学中学生運動の真つ最中で試験も出来ずレポート代用という事もあったので、余り大学に行かなかった人が私を含めて多く、電話を掛けるにも初めてという状況でした。外出中・出張中ないしは、移転しているという事も多く、苦労はありました。京大仲間が集まる(グループを組む)のは嫌いな人も数人いて、さすが「群れない京大」だなと感じましたが、逆にフアイトも湧いたものです。何とか支部総会に十二人集める事が出来ホッとしましたが、同期の竹本さんが俺も手伝うよと言って、「昭和四十六年同期のホームページ」を作ってくれました。同期会連絡・四方山話等を載せていますが、新聞記者の中西さんの投稿で盛り上がっており、現在五一名が加入しています。十三年五月の大宮出張に際し、銀行支店長の中澤さんの事を知り、名刺交換を申し出た所、快諾頂き、お会いしましたがお互い顔を見合わせ、記憶無いねと言ったものの意気

投合し、これは面白い。「初対面も何のその」やはり大学の同期は初対面でも違ふんだと再認識し、出張の都度各地の同期と話し合う機会を設けました。東京支部では京大の先生の講演を聞きかつ懇親を深める経済懇話会を年間三回程度土曜日の午後

に開催していますが、同期の吉田和男教授を招き、十三年六月の第一回目の経済懇話会終了後、昭和四十六年の第一回同期会を開催し十八名参加しました。その後ほぼ経済懇話会と日を合わせて、同期会を開催し新年会も含めて毎回二十名弱集まっています。大阪にも大勢同期がいるので、関西在住の同期に電話していると、高島さんが大阪支部の理事だという事が分かり、高島さんと共同で十三年九月に梅田で昭和四十六年同期会を開催し、二十一名参加しました。十四年十一月には大阪で二回目の昭和四十六年同期会を開催し二十三名参加し、現在昭和四十六年同期会名簿は七〇名になりました。十五年三月の東京支部総会の懇親会では、例年合唱の指揮をしている人が出席出来なくなり、今年

は昭和四十六年で頼むと言われ、ピアノの素養のある中西さんと合唱団の羽田さんに学歌及び琵琶湖周航の歌の指揮を安酒一杯でお願ひし、何とか懇親会を乗り切りました。十五年六月の第七回経済懇話会は同期の吉田教授の講演があるので、関西の同期にも参加をよびかけている所です。

(武田健作 記)

「時計台記念館」化への改修工事着工

京都大学百周年時計台記念館



京都大学の時計台は、建築学科初代教授 武田五一氏が設計し、大正14年(1925年)に完成した京都大学キャンパスを代表する建物であり、ゼツェッション的な*意匠を随所に留め、その外観は格調高い風格を備え、歴史的にも貴重な存在です。

大正・昭和・平成と三代の永きにわたり、京都大学のシンボルとして親しまれてきた時計台は、京都大学創立(明治30年、1897年)100周年記念事業の一つとして、「時計台記念館」化に向けた改修工事がおこなわれています。改修工事では、外観は保存し、免震装置据付・耐震補強の工事をおこない、内部は改修によって、学術・学問の交流、発信の場へと生まれ変わります。

改修工事後の「時計台記念館」の一階には、受付・事務室、展示ホール、大ホール、名誉教授室、喫茶・レストラン、大学文書館、二階には国際交流ホール、迎賓室、大学文書館、地階には購買部が、それぞれ配置される予定です。

旧法経第一教室のあとにつくられる一階大ホールは、最新の設備・機能を備えた多目的大ホールです。北側の中庭に突き出ており、外壁を透過性のあるガラスで覆うことにより、日中は北側の法経本館をはじめ、まわりの景色

が映し込まれ、その表情は時刻とともに移り変わります。また、内部は500名程度が収容可能であり、同時通訳装置を併設しており、大規模な国際学会の開催にふさわしい設備となります。

この改修工事は、平成13年度に始まり、平成15年度中には竣工する予定です。

*ゼツェッション(ドイツ語、ゼツェシオン Sezession)(分離の意)建築上・美術工芸上の一の様式。1897年ウィーンでオットー・ワグナーを中心とする若い芸術家たちが興した過去の美術様式から分離しようとする運動。機能性・合理性を重視。各国に波及、建築やデザインに大きな影響を及ぼした。分離派。(広辞苑)